

## 第4回大竹市地域公共交通活性化協議会

### 記 録 票

日時：平成21年 2月 3日（火）  
午前9時30分～

場所：大竹市役所 3階大会議室

出席者等：別紙「名簿」のとおり

#### 1 開 会

#### 2 あいさつ（会長：小田）

世の中が「不景気」であり、どこも苦勞されていることと思うが、そうはいつでも知恵を絞り前向きに取り組んでいかななくてはならないのが現状ではないだろうか。そういう意味ではタクシー業界にも同じようなことが言えるのではないかと思っている。介護予防においても「移動」というものが大切な要素になっているが、人が動かなければ街は活性化していかない。そのような意味から、本協議会においても、市民の利便性を第一に考えて、取り組みを進めていきたいと考えている。

#### 3 議 題

##### (1) 地域公共交通活性化・総合再生事業に関する事後評価の審査結果について

###### 【事務局（香川）口頭で報告】

標記の評価内容について平成21年1月24日付で各委員に書面での審議を依頼した。委員12人から全会一致で承認いただいたため、本協議会の評価結果として1月30日付で中国運輸局長宛提出した。結果は市ホームページで速やかに公開の予定である。

なお、付帯意見（2件）については、計画案に対する意見と判断したため、議題2でご発言願いたい。 ⇒ 

質疑・意見等なし
----------

##### (2) 大竹市地域公共交通総合連携計画（中間案）について

###### 【事務局（香川）資料により説明】

**質疑1（七寶委員代理 半田）** 来年度以降の市の負担額の推計をどう見込んでいるか？

**回答1（事務局）** 事業費は案の11～12ページに記載している。現在の路線バスの経費が4,600円/時であり、1年間の経費が約2,854万円になる。仮に1回200円の運賃として推計した場合、1日あたり391人、1便あたり12人の乗車が採算ベースになる。不足する部分について市がどこまで助成できるかということになるかと思う。

**質疑2（半田委員）** 幹線の運行にあたり、現在運行中の「ゆめタウンバス」との関連性をどう考えているか？

**回答2（事務局）** 「ゆめタウンバス」は「従業員の送迎用バス」と位置付けており、公共交通とは言い難く、本計画では触れていない。ただし、幹線の運行にあたっては調整が必要と認識しており、業者との調整に入りたいと考えている。

**関連意見2（越水委員）** 「ゆめタウンバス」は無料であり、重複区間の乗客はいないのではないか。

**関連意見2（小田会長）** 双方の整合性を取る必要があり、協議もしていかななくてはならない。連携のやり方としては様々な手法が考えられると思っている。

**質疑3（半田委員）** 幹線バスは駅舎前への乗り入れが望ましいと思うが、実施が困難な事例もあるようである。その辺りの調整はついているのか？

**回答3（事務局）** 車両の乗り入れについてはJRと協議中である。また、幹線のルートやバス停の位置等は別に設置する分科会で検討する予定であるが、その議論もふまえて対応していきたい。

**質疑4（賀屋委員）** 幹線については200円の定額料金を想定しているが、例えば玖波駅～広島西医療センターの乗車では距離も短く割高に思われるが、低額の料金設定は考えられないか。

**回答4（事務局）** 距離制か均一料金かという問題だと思う。設備の整備や分かりやすさ、使いやすさを考えると均一料金が良いと思っている。

**質疑5（傍聴者A）** フィーダー交通の料金設定について、乗車人数により運賃が変わることについて、前回の協議会で疑義があったが、結論は怎么样了か。

**回答5（富田委員）** 調査・検討している段階である。しばらく時間をいただきたい。

**質疑6（傍聴者B）** 幹線ルートから外れる地域はフィーダー交通が必要になると思うが、住民主体で独自に導入することが難しい状況がある。幹線との距離が近い地域の場合、迂回してきめ細かく地域をつなぐルートに変更することはできないか。

**回答6（小田会長）** ここに示しているのは実験運行の案であり、永久にこのルートに固定するものではない。今後、変更することも十分にあり得る。現時点では、利便性などを総合的に考慮して、このルートを幹線として実証運行を行いたいと考えている。

**回答6（事務局）** 特定地域の利便性だけを考えると迂回するルートが良いと思う。しかし、ルート周辺には多くの地域が存在している。その地域を順に迂回していると、短距離にも関わらず移動に長い時間を要することになる。結果として、誰も乗らないバスになってしまうことを危惧している。それを解消するために、幹線とフィーダーに区別して運行するシステムが有効との思いから、それぞれの地域から拠点へはフィーダー交通で対応したいと考えている。まずは幹線を運行したうえで、地域の実情に応じてフィーダーの検討・導入を行っていきたい。もちろん地域の皆さんと一緒に考えていくとともに、しっかりと支援していきたい。

**意見6（小田会長）** 将来的には、いくつかの地域をジャンボタクシー等で巡回して拠点へ運ぶような、発展性がある仕組みになればいいのではないかと思っている。

**追加説明6（事務局）** 【三ツ石地域の取り組みについて説明】

**意見7（小田会長）** 「大竹駅前商店街を経由するルートはどうか？」という意見をいただいている。参考意見として紹介する。

**小田議長** それでは、この中間案を本協議会の計画（案）としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

**委員一同** 異議なし。

#### 4 その他

##### (1) 今後の予定について

- ・パブリックコメントの実施概要について
- ・今後のスケジュールについて
- ・分科会の設置予定について

10月からの幹線の実証運行に向けて、最終的なルートやバス停の位置、料金などを検討するために、分科会を設置したいと考えている。8月中には詳細を決定する必要があるので、次回協議会に諮ったうえで早急に進めていきたいと考えている。

- ・次回開催日程について

調整不調のため、事務局にて別途調整することとした。

#### 5 閉 会